

平成１９年度 企画事業 実施報告

- 1 事業名 「人生と生きがいを見つめるワークキャンプ」本キャンプ
- 2 期 日 平成１９年９月１８日(月)～９月２４日(月) ６泊７日
- 3 募集定員 １０名
- 4 参加者 ３名
- 5 参加者内訳 社会人１名，高校生２名（静岡県１名，兵庫県２名）
- 6 講師 兵頭正行（静岡県立朝霧野外活動センター）
保科哲也（静岡県キャンプ協会）
田中沙結美（ＮＰＯ法人キャンプカウンセラー協会）
松村有記（鈴鹿医療科学大学）

7 実施プログラム

９月１８日(月) 第１日目

- 14：00～14：30 はじめの会
- 14：30～15：00 生活の準備
- 15：00～16：30 館内宝探し
- 16：55～19：30 夕食準備・夕食・片付け
- 20：00～21：00 夜のつどい

９月１９日(火) 第２日目

- 7：00～ 7：15 朝のつどい
- 7：15～ 8：50 朝食，昼食準備
- 9：15～13：45 周辺散策
- 14：00～15：15 入浴・休憩
- 16：00～19：45 夕食準備・夕食
- 20：15～20：45 夜のつどい

９月２０日(水) 第３日目

- 7：00～ 7：15 朝のつどい
- 7：15～ 8：55 朝食，昼食準備
- 9：15～13：45 選択プログラム（サイクリング・釣り）
- 14：00～16：00 休憩
- 16：00～18：30 夕食準備・夕食
- 18：45～20：30 入浴（交流の家）
- 20：45～21：30 夜のつどい

９月２１日(木) 第４日目

- 7：00～ 7：15 朝のつどい
- 7：15～ 8：55 朝食，昼食準備
- 9：15～14：00 選択プログラム（釣り・塩造り・海遊び）
- 14：00～15：30 入浴（ゆとりっく）
- 16：00～18：30 夕食準備・夕食
- 18：45～20：00 夜のつどい

9月22日(金) 第5日目

- 7:00~ 7:15 朝のつどい
- 7:15~ 8:45 朝食準備・朝食
- 9:00~ 9:45 ミーティング(チャレンジプログラムの決定)
- 9:45~ 10:30 チャレンジプログラム準備
(個人装備の確認・行動食の配布)
- 11:50~ 12:45 昼食準備・昼食
- 13:00~ 14:00 チャレンジプログラム準備
(全体装備の確認・積み込み)
- 15:40~ 17:00 夕食準備・夕食
- 17:45~ 0:15 チャレンジプログラム(20km徒歩踏破)
(伊加利公民館→淡路青少年交流の家)

9月23日(土) 第6日目

- 9:00~ 10:15 起床・朝食・片付け
- 10:30~ 13:00 海遊び(阿万海岸)
- 13:45~ 14:15 昼食
- 14:40~ 15:15 移動(淡路青少年交流の家→伊加利公民館)
- 17:00~ 19:30 夕食準備・夕食・片付け
- 20:15~ 21:45 夜のつどい

9月24日(日) 第7日目

- 7:00~ 7:15 朝のつどい
- 7:15~ 8:00 朝食準備・朝食
- 8:30~ 10:00 片付け
- 11:00~ 12:00 終わりの会
- 12:00~ 12:30 昼食
- 13:00 解散

8 プログラムの内容

- (1) はじめの会 自己紹介後、生活の中心となる宿舎の整理を行った。
生活の準備
- (2) 館内宝探し 生活の拠点となる伊加利公民館を知るため、事前に撮影した写真を手がかりに、公民館内の撮影箇所を探して回ることを行った。
- (3) 食事準備 生活の基本となる食事については、自炊することを基本とした。協力して自炊する過程で、コミュニケーションの契機や場となることを意識した。
- (4) 夜のつどい 一日の出来事を振り返るとともに、翌日の活動紹介を行い、参加者のプログラム選択や心の準備の材料とした。
- (5) 周辺散策 残暑厳しい中、徒歩で4kmほど離れた丸山海岸まで行き、淡路島の自然を楽しめる海遊びを行った。
- (6) 選択プログラム 三日目、四日目とスタッフの提案・紹介したプログラムの中から参加者の希望でプログラムをこなした。プログラムは、サイクリング・釣り・海遊び・塩造りを提案した。日中の暑さを意識してどれも海と関連させて行動できるように工夫をした。

(7) チャレンジプログラム 全員が参加でき、励ましあえて、信頼関係を築けるプログラムとして、事前準備の段階から20km徒歩踏破を検討した。参加者自らが、このプログラムに積極的に関れるよう、話し合いや準備を行い計画・実施した。

(8) 終わりの会 今回のキャンプを通しての感想を参加者・スタッフともに述べ合い、自分以外のひとの感想を聞くことで、自分を振り返るきっかけとした。

- 9 広報の方法
- ・ 近畿・中国・四国地方のフリースクールや民間の支援施設等に、事前研修会参加募集も兼ねて開催要項を送付した。また、近府県の教育委員会・教育系大学へも開催要項を送付した。当所ホームページにも掲載した。
 - ・ 新聞にも今回の事業を採り上げていただき、大きな広報となった。

- 10 担当者所見
- ・ 参加希望者に対して、保護者とともに概要説明を行い、生活状況等を聞く機会をもった。そこで知り得た情報を事前にスタッフが共有し、本キャンプでの参加者への関りの参考にできたことは、実施するに当たり大切なことであった。
 - ・ 他の団体と接触があり落ち着けなかった昨年の反省に立ち、今回は廃校跡の伊加利公民館を借用して実施した。公民館利用者の出入りは多少あったものの、3階1フロアをすべて利用でき、落ち着いた環境で行えたこと、また、普段と大きく変わらない環境で実施できたことは、参加者にとっては安心して取り組めたように思われる。
 - ・ 6泊7日のキャンプの中で、参加者は最初、緊張し、不安も感じていたようであるが、徐々に表情も和らぎ、自らの意志での活動も見られた。実施期間に関して、6泊7日と少し長いように感じられるが、参加者の変容状況によっては、短いとの評価もできる。今回のキャンプでは、参加者の変容と暑さの中での活動による体調を考えると、ちょうど良い期間のように感じられた。
 - ・ スタッフは、人数・年齢・男女構成・経験のいずれの面からみてもバランスよく配置できた。キャンプ経験者・未経験者も含め、参加者と同じ視線で参加者を支える学生スタッフ、そのスタッフにアドバイスをするキャンプコーディネーター、キャンプカウンセラーというように、一人の参加者にゆとりあるスタッフ数で関ったことは参加者をサポートするのに充分だったと思う。また、学生スタッフがキャンプカウンセラーの技術を学ぶ機会が多く生じ、学生スタッフの指導力向上が図られた。